

講座

ITと日本語研究 全8巻

荻野綱男・田野村忠温【編】

A5判・並製カバー装・各巻平均240ページ 定価：各巻2,520円(本体2,400円)

1 コンピュータ利用の基礎知識(※)
ISBN978-4-625-43438-9

2 アプリケーションソフトの基礎(※)
ISBN978-4-625-43439-6

3 アプリケーションソフトの応用
ISBN978-4-625-43440-2

4 Perlによるテキスト処理
ISBN978-4-625-43441-9

5 コーパスの作成と活用(※)
ISBN978-4-625-43442-6

6 コーパスとしてのウェブ(※)
ISBN978-4-625-43443-3

7 ウェブによる情報収集(※)
ISBN978-4-625-43444-0

8 質問調査法と統計処理
ISBN978-4-625-43445-7

(※)：既刊



好評
発売中!

日本語研究のための 初めてのIT講座

好評
発売中!

講座 ITと日本語研究 全8巻

荻野綱男・田野村忠温【編】



お申し込み(注文書)					
お名前			お電話番号(ご勤務先・ご自宅)		
学校名(ある方のみ)					
備考	ご注文				番線印
	巻	冊数	巻	冊数	
	1		5		
	2		6		
	3		7		
	4		8		

- *ITの観点から日本語研究にアプローチする全8巻!
- *日本語学に携わるすべての人必備!
- *日本語研究をもっとスムーズに、もっと深めるIT活用法!
- *いまさら聞けないITツールの基礎・基本から、研究を飛躍させる応用技術まで。

株式会社明治書院

〒169-0072 東京都新宿区大久保1-1-7
TEL:03-5292-0172 FAX:03-5292-6183
<http://www.meijishoin.co.jp>

明治書院

刊行のこぼ

ここにIT(情報技術)と日本語研究の橋渡しとなる講座を刊行する。日本語研究は、さまざまな側面でIT関連技術の恩恵を受けており、日本語学分野の研究を行うものは、意識しようとしまいと、ITの支援なしには研究できない状況になっている。論文を書くのにワープロソフトのお世話にならない人はほとんどいないのが現状であろう。最近では、パソコンで各種データの処理を行う人も増えてきている。

ITに関する技術をうまく活用することで、日本語研究はさらに効率が高まることにもなってくる。もともとは別の分野で研究されてきた両者を関連するものにとらえ、ITの利用で日本語研究をどのように効率化させることができるか、ITの利用によってどのような日本語研究を開拓していけるのか、それを展望したのがこの講座である。

従来、日本語学の研究を志す人はIT関連技術には詳しくない場合が多かった。他分野でさまざまな技術が開発されていても、自分自身でそのようなものを利用することなど思いもよらなかった人がたくさんいる。しかし、そのような状態は好ましいものではない。日本語学の分野で(他分野でも同様であるが)ある研究をしていくのに必要なことは、全部自分自身でまかなえるのが理想である。

IT関連技術にうといからといってその部分を他人の力に頼るのでは、自分で研究の全体をまかなっていることにはならない。道具というものは、自分自身で使うことで自分の力を高めることができるし、道具を使いこなすことで研究面での次の新しいアイデアもわいてくるというものであろう。

幸いなことに、現在の日本では日本語学を専門にする人の中でITに詳しい人がたくさん存在する。だったら、そういう人たちの力を結集して、ITに詳しくない人の手助けをしてあげることができないだろうか。本講座の趣旨はまさにそこにある。

日本語学の勉強をする人(典型的には学生)は、日本語学のことを学ぶとともに、基礎知識としてIT関連のことも心得ておかなければならない。では、日本語学で必要とされるIT関連の知識とは何だろうか。それが全8巻に渡って展開されるこの講座である。この講座の全体を理解し、自分のものにできれば、万人力である。そうでなくても、任意の1巻を読むだけでも、その巻で扱う分野について十分な知識が得られるように配慮した。

編者としては、日本語学に興味を持つ多くの人に本講座を読んでもらいたいと願っている。そして、そのような人によって、次世代の研究が開花することを望んでいる。

編者

編者紹介



荻野綱男(おぎのつなお)
日本大学文理学部教授。1952年、埼玉県生まれ。東京大学文学部言語学卒業、同大学院人文科学研究科修了。埼玉大学教養学部、筑波大学文芸・言語学系、東京都立大学人文学部を経て、2005年4月から現職。専門分野は、特に、社会言語学・敬語研究・コンピュータ言語学・計量言語学など。主要編著書に『デジタル社会の日本語作法』(共著、著、岩波書店、2007)、『現代日本語学入門』(共著、明治書院、2007)、『計量国語学事典』(共著、朝倉書店、2009)ほか。



田野村忠温(たのむらただはる)
大阪大学大学院文学研究科教授。1958年、岡山県生まれ。京都大学文学部卒業(言語学専攻)、同大学院文学研究科科学修退学。奈良大学文学部、大阪外国語大学外国語学部を経て、2007年10月から現職。専門は言語学・日本語学。特に日本語の文法・語彙・意味などの分析。著書に『現代日本語の文法 I ―「のだ」の意味と用法―』(和泉書院、1990)、『コーパス日本語学の新展開』(共著、特定領域研究「日本語コーパス」日本語学班、2010)ほか。

特色

●日本語研究にすぐ役立つIT知識

日本語のデータ処理、コーパス、ウェブ、質問調査法と統計処理など、日本語研究に必須のIT関連知識およびその活用法を丁寧に解説。

●基礎から応用まで体系的に学べる

それぞれの領域につき、基礎から応用まで幅広くカバー。日本語研究の初学者から、より効率化を求める専門家まで対応する講座ラインナップ。

●具体的な研究例に即した解説

領域の全体像を把握するための概説に加え、実際の研究に即した活用例をあげながらの具体的な解説。豊富な画像で、そのまま研究に活かすことができる。

●責任執筆

日本語研究の第一線で活躍中の研究者による執筆。それぞれの研究分野の特性・専門性を活かしながらのわかりやすい解説。

全巻の構成

(予定)

- 1 コンピュータ利用の基礎知識
2 アプリケーションソフトの基礎
3 アプリケーションソフトの応用
4 Perlによるテキスト処理
5 コーパスの作成と活用
6 コーパスとしてのウェブ
7 ウェブによる情報収集
8 質問調査法と統計処理



(組見本:縮小してあります)